

今月の一品 平成 30 年9月

初期の社会科教科書



「国語・算数・理科・社会」と主要教科の一角を占める社会科ですが、その歴史は新しく戦後生まれの教科です。戦前の学校に社会科はなく、歴史（国史）科や地理科などに分かれている時期がほとんどでした。

戦後、新たな教育制度がスタートし、社会科が新教科として設置されました。子どもたちを民主主義社会の担い手として育む教科として大きな期待を背負っての船出でした。

今回展示した教科書は、社会科が誕生して間もない昭和20年代の初期社会科教科書です。良く見ると「文部省著作教科書」と記されています。すでに教科書の国定制度は廃止されているはずですが、これらはいずれも著作者が文部省（国）となっています。

これは、まだ民間の教科書会社における編集・出版の態勢が整っていなかったことから、暫定的な措置として文部省が著した様々な教科の教科書が発行されたことによるものです。特に、社会科は全くの新教科であったことから民間による発行がほとんど間に合わず、文部省著作の教科書が広く用いられることとなりました。

初期の社会科教科書は、記述内容を覚えるためのものだったそれまでの教科書とは異なり、学習の手がかりとなる「参考書」のような位置づけとなっていました。社会科が、子どもたちが主体的に問題を解

決していく力を育む教科として位置づけられていたからです。

9月15日から30日まで市民会館と当館を会場に「飯能市小・中学校社会科研究展」が開催されます。子どもたちが自ら問題を発見し解決するという社会科の魅力がたくさん詰まった作品ぞろいです。ぜひ、ご覧ください。

参考文献

滋賀大学附属図書館編『近代日本の教科書のあゆみ 一明治期から現代まで一』、サンライズ出版、2006年